

# 甲南Today

大学の未来が見える

No. 10  
2001  
12.1

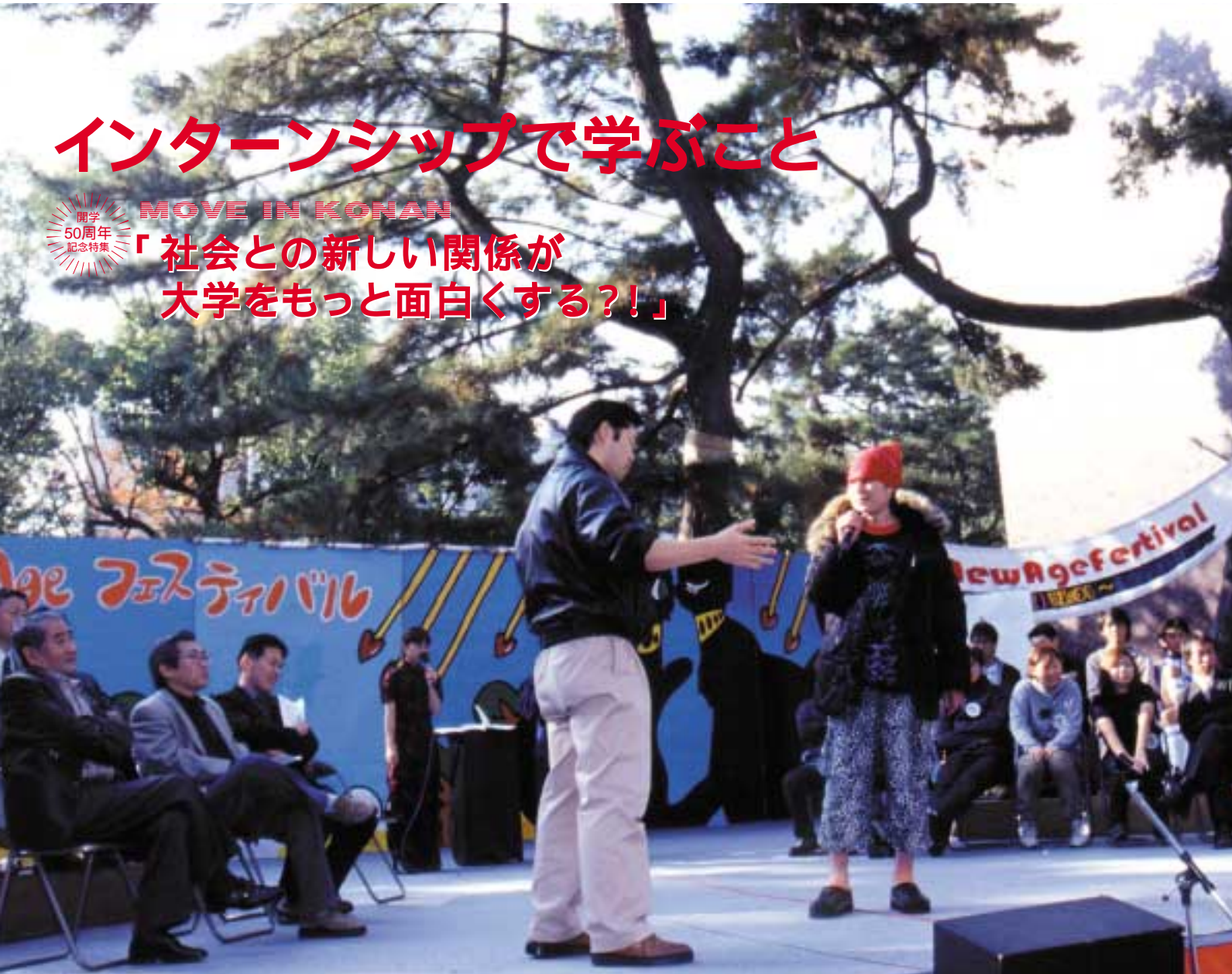
甲南Today No.10

2001年12月1日発行 「発行」甲南学園広報室 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078 431 434(代)

## インターンシップで学ぶこと

開学  
50周年  
記念特集

MOVE IN KONAN  
「社会との新しい関係が  
大学をもっと面白くする?!」



## シリーズ●甲南学園の20世紀 ⑧

昭和26(1951)年



1958年当時の1号館

### 平生の意思を継ぐ大学を。 強い想いに応え、甲南大学を設立。

昭和20年代のはじめに持ち上がった大学設置構想において、最大の障壁は戦争による財政の窮乏でした。幸いにして校舎は戦禍を免れましたが、資産の多くが満鉄をはじめ、敗戦で消滅してしまった会社の株式・社債だったため、学園の経営自体が極めて困難になっていました。

しかし、そうした状況にも拘わらず、同窓会に続いて、学園評議員と生徒自治会代表との懇談会や理事会において、ぜひ平生の意思を継ぐ大学を作りたいと出席者の大多数が大学設立を支持、これを受けて永井幸太郎理事長が奔走。アメリカのアンダーソン・クレイトン商会など、多数の企業から寄付や協力を集め、4年制大学実現の可能性を生みました。

そのついで、何をあいても必要だったのは、平生精神を熟知した良き指導者です。そこで、旧制甲南中学校・高等学校創設時に教鞭を執つた京都大学理学部教授の荒勝文策に初代学長を懇請。「甲南が7年制高等学校から培ってきた伝統・精神を一層高める大学ならば引き受けてもよい」との快諾を得ます。これにより大学の構想は一気に具体化しました。

ついで昭和26(1951)年4月、甲南大学が誕生。いよいよその歴史を刻み始めることとなったのです。

平生 鈞三郎のごよば

8

「大学は大人が行って、自分の好きな学問をしようというところだから、これは私立でも構わない」

平生鈞三郎様、私は新うらら、昭和11年発行より

インターネットで甲南大学へ

<http://www.konan-u.ac.jp>



- 01 Pick up the 甲南  
甲南大学 大学旗
- 02 WHAT'S NEW! KONAN  
第14代甲南大学学長就任インタビュー  
S-net用ダイヤルアップサービス開始
- 03 KONAN CAMPUS WATCHING  
**インターンシップで学ぶこと**
- 07 キャンパスライフここが知りたい!!  
～学生会館編～
- 08 MOVE IN KONAN シリーズ第4回  
**「社会との新しい関係が、大学をもっと面白くする?！」**
- 13 学びの最前線! アカデミック・ナウ  
森田ゼミ  
有機工業化学研究室
- 14 KONAN PEOPLE 甲南ピープル  
「ドイツ語弁論大会」に二人三脚!  
学生と教師を超えた、もう一つの絆。
- 15 クラブ・サークル紹介  
体育会ラグビーフットボール部  
文化会古美術研究会
- 16 キャンパスダイジェスト  
新刊レビュー
- 18 甲南フォーラム
- 19 甲南学園の20世紀



今回の表紙 / 第37回摂津祭

11月21～25日の5日間、約16,000人の来場者を迎えて沸きに湧いた摂津祭。学生と教員による公開討論会「ガチンコ21」(写真)などのイベントも、学生パワー全開で盛り上がった。



甲南大生一人ひとりの夢と理想を掲げるように、大空にはたくたくと大学旗。これは昭和34年当時の学生たちが学友会自治会の前身からの卒業記念品を辞退し、その費用に同窓会の補助金を加えて制作したものです。旧制甲南高等学校時代から続くスクールカラーのえんじ色を基調に、仕立ては美しい本編つづれ錦織。同年10月25日の体育祭で、堂々初披露されました。

また、中央の校章は、旗の完成よりさらに先立つ昭和26年、公募によるデザインに、甲南高等学校美術教諭の小野安治画伯が加筆したもの。六甲の「かぶと」をくわがたでかたどり、大学の文字を配しています。まさに、甲南の伝統と多くの人々の思いが織り込まれているこの大学旗、今後も長く受け継がれていくことでしょう。

## WHAT'S NEW! KONAN

### 再選を果たした 吉沢学長に聞く—— 甲南を担う新たな決意。

#### 次期学長就任インタビュー

11月16日に行われた学長選挙の結果、吉沢英成・現学長が再選。来年4月から2年間、引き続き学長職に就くこととなりました。次期の甲南大学を担うべく決意をここで語っていただきます。

「今後2年の任期を任されたというところで、まずはその期間を精一杯務めようというのが率直な想いです。少子化が進むなど、私立大学を取りまく現状は決して思わしくありません。甲南大学としては、いま求められる、広く、深い「コミュニケーション」能力を養う学部教育体制の確立に努めます。そのためには、情報化(IT)への対応と同時に、双方方向のフェイストウ・フェイス授業の充実が必要です。」



大教室講義の教育効果を今まで以上に高めるため、補助体制を確立していくことが肝心でしょう。

また、ネットワークで学びを変えていくとする試み、S-netがよいよスタートしました。仕組みはすでに完成していますから、今後はどんなコンテンツを用意しよう使いこなすかが課題ですね。

さらにハイテク・リサーチ・センター、カウンスリングセンターなど、研究活動の充実も図り、大学としての個性を打ち出していきたいと考えています。また、法曹養成のための法科大学院の設置に向けての準備を進めていきます。

私のモットーは万機公論。具体的な問題について検討していくなかで、甲南大学の公甲論を作り上げていきましょう。これまでの経験から得たのは、学生の教育にとって何が必要かの視点からの全体の協力がなければ、何も進まないということという吉沢学長。一人ひとりを見据えた大学作りがいま新たに始まりま

### 全国どこからでも 学内ネットワークへ。

#### S-net用ダイヤルアップ サービス開始

甲南大学の情報環境と学生一人ひとりを結ぶ広域ネットワークとしてのS-net(Student Network)。情報教育研究センターによる教育サポートをより充実させるため、11月から、従来のノートパソコンの貸し出しやヘルプデスクに加えて、ダイヤルアップサービスを開始しました。

これにより、全国どこからでも3分8.5円で甲南大学ネットワークに直接アクセス。自宅はもちろん、就職活動先や旅行先、帰省先の実家からでも、気軽に学内サービスを利用できるようになります。インターネットが利用できるほか、これまでは学内でないとチェックできなかった「講義用コンテンツ」や「就職情報」、「図書検索システム」、「電子ジャーナル」なども、もちろん閲覧可能。キャンパスに足を運ばなくても必要な情報を収集でき、時間を有効に活用できそうです。さらに電子メールでのレポート提出など、使い方は多彩。

サービス利用について、詳しくは情報教育研究センター事務室(2号館3階)までお問い合わせください。週2回、火曜日と木曜日に行っている説明会に参加し、簡単な手続きさえすれば誰でもすくべ利用できます。

経営学部経営学科 3年次 片岡 郁恵さん

「社会に出て、はじめて、  
見えてきた自分がある。」

インターンシップ先	関西日本電気ソフトウェア株式会社
参加期間	平成13年8月21日～平成13年8月31日



片岡さんのインターンシップ体験! ある日の日記

時間	業務内容
8:45	出勤。 パソコンを立ち上げる。
9:00	業務開始。 担当の方に一日の業務を確認する。 昨日作成したナレッジ文書(HTML)の サイト別リンク集の最終チェック。
12:15	昼休み。 他大学のインターンシップ生と交流。配属に なった部署により、業務内容が全く違って いるのに驚き! 中には、出張に同行したり、夜遅 くまで残業した人もいました。
13:15	業務再開。 午前中のチェック終了後、担当の方 の指示をあおぐ。 次はエクセルで顧客名簿を作成。
17:00	本日の業務終了。 研修日誌を書いて提出し、確認 を受ける。

会社のホームペ  
ージ制作に携わ  
れたのは、貴重  
な体験でした



インターンシップで仕事と向き合う。それは、自分と向き合うことと発見。

「オフ・キャンパス・アクティビティ」(OCA)に参加したのは、テニス・サークルの先輩からいつも就職活動の大変さを聞かされてきたのがきっかけ。将来への不安が募ってきて、何もせずにいるより、一度、社会の現状を自分の目で確かめたいと思ったんです。

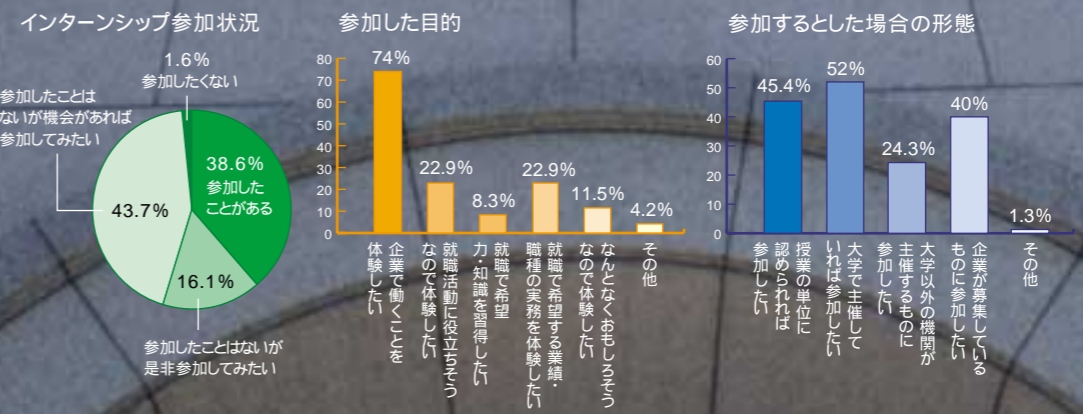
訪問した企業は、関西日本電気ソフトウェア(現NECシステムテクノロジ)です。ここではナレッジマネジメントとして、企業の知的財産を収集・分類し、社員が共有することを目的とした業務に2週間、アシスタントとして勤務しました。最初のうちは自分が何も知らないで、つい遠慮してしま、思うように仕事をこなせないことに焦りましたね。インターンシップで参加している他大学の学生の中には、何を

するにも物怖じしないで積極的に仕事をする人がいたので、余計にそう思ったのかも知れませんが、ただ、じっくりと自分を見つめ直しながら仕事に取り組むうちに、失敗をおそれる性格は何も短所だけじゃない。ものごとを慎重に考えて、仕事をこなしていくのは長所でもある気がついたので、インターンシップで会社や仕事を確かめに行くことだと思っていました。でも結局、私が見つけたのは、自分自身のこと。そのおかげで、就職に対して焦っていた気持ちに余裕が出てきたのです。これから就職活動を始めますが、機会があれば、その前に他の業務も体験し、また違った自分の一面を見つけないと思いたいです。

# インターンシップで 学ぶこと

学生が在学中に、将来めざすキャリアに関連した就業体験を行う産学提携の教育プログラム。それがインターンシップ。就業意識の高いアメリカではすでに85%もの4年制大学がインターンシップ制度を導入しており、多くの学生が自分の将来を具体化するためのチャンスとして活用しています。日本でも、いま、就職を意識する学生の関心はインターンシップに集中。ある調査では、9割以上の大学生が参加を希望しているという結果が出ています。こうした背景のなか、甲南大学においては、全国の大学に先駆けて1994年より、学生の学外活動の成果を単位として認定する「オフ・キャンパス・アクティビティ」(略称OCA)の一貫として、インターンシップ活動の充実に取り組んでいます。甲南大学では具体的にどんなサポートが行われており、そこで学生は、何を身につけることができるのでしょうか。体験者の声を通して、関心の高まるインターンシップの実状を紹介します。

インターンシップに対する学生の意識



出典 / (財)雇用情報センター「インターンシップの導入に関する調査研究報告書」平成10年3月

経営学部経営学科 伊豫田 隆俊 教授

OFF CAMPUS ACTIVITY



**講義で学んだ知識を、実践で使える知恵に変えて欲しい。**

私たち経営学部では、インターンシップを実践する「オフ・キャンパス・アクティビティ(OCA)こそ、大学で学んだ知識を、社会で実際に活用できる活きた知恵に変える貴重な講義科目と位置づけています。例えば、経営学部の「会計学」の講義で出てくる「手形」。これ一つとっても、ほとんどの学生は実際に目にしたことがないため、授業で説明すれば知識として知ることはいえますが、本当の意味で「これを理解すること」は難しい。ところが、こうした知識を持って現場に行き、実際にそれがどう使われるのを見れば、おそらく一目で理解できるでしょう。そればかりが、一度現場を体験して行くことで、今度は大学に帰ってから、何が自分に必要な知識かを考えながら学ぶことができるようになる。私たちは、就業体験の中でも、学生自身のこうした気づきに意味があると考えているのです。

また、事前に2日間のビジネスマナー研修を設け、さらに終了後には、そこで学んだことを、10分間のスライドとして発表することを義務づけるなど、就業体験の入口と出口の部分まで、しっかり指導しているのは、このプログラムならではの特徴。残念ながら現在のところ、OCAは経営学部だけでしか行われていませんが、近いうちに、全学的に拡げていきたいと考えています。

OCAの責任者にインタビュー

INTERNSHIP PROGRAM

経営学部経営学科 3年次 丸田 真也さん

**「簡単な仕事なんてない。だからこそ、おもしろい。」**

インターンシップ先	株式会社兵庫不動産鑑定所
参加期間	平成13年8月7日～平成13年9月18日



丸田さんのインターンシップ体験! ある日の日記

時間	業務内容
8:50	始業10分前に出勤。
9:00	仕事開始。地価のデータをエクセルフォーマットに打ち込んでいく。
10:00	地価公示価格の現地調査へ同行。 <small>現地調査など、全く初めての経験だったのでドキドキしました。</small>
11:00	現地の役場に立ち寄って書類を提出。
12:00	昼休み。
13:00	道路、住宅地などの調査を実行。
14:00	役場で資料の閲覧・まとめ。
18:00	現場作業を終えて帰社。 <small>この日は本当に「仕事をした」という充実感がありました。職場の方からも「今日はよう仕事したなあ」と言われ、とてもうれしかったです。少しは戦力に感じてもらえたかな?</small>
18:30	机を片づけて帰宅。

仕事の厳しさややりがいを知り、就職への意識が大きく変わった。

僕がお世話になったのは、「兵庫不動産鑑定所」。公務員をめざしているので、できれば役所に入りたいという職場を体験したいと思ったのです。

ただ、不動産鑑定士という仕事は、専門的な内容のため、僕にできることと言えば、地価のデータをパソコンに入力していくことくらい。一日中、この作業を続けるのは、本当に骨が折れたし、一人の作業なので、いつの間にか気が弛んでいたかも知れませんが、現地調査に同行させてもらったのは、そんなときです。これは道路幅の測定や周囲の状況を写真に納めたりという作業を、数人のチームで行います。ミスすると、そのまま他の多くの人が迷惑するので、常に気をつけていなければなりません。僕が数人で役割を

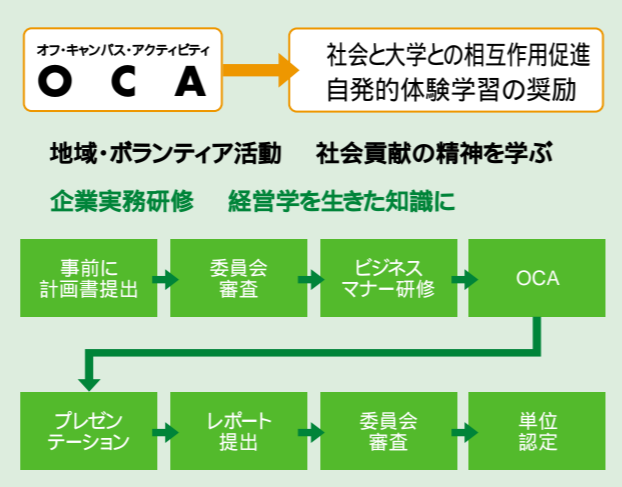
分担して作業を進める中で感じているのは、仕事の充実感。ここではじめて、データの入力も相手が見えないだけで同じ仕事と気がつきませんでした。

大学の講義はサボっても結局自分のことですが、仕事は違う。一人ひとりが常に自分と与えられた仕事に対して責任を果たさなければならぬからこそ、どんな内容であれ難しいし、やりがいがある。それを肌で感じ、自分の職業に対する意識が甘かったことを知りました。最近は公務員試験をめざして勉強を続けていますが、いま頑張れるのも、ここで、働くことの醍醐味に触れたことが大きいと思います。



時間厳守や挨拶などの大切さをここで実感できました

経営学部「オフ・キャンパス・アクティビティ」概要



「オフ・キャンパス・アクティビティ」(企業実務研修)2001年度実績

学年	インターンシップ受け入れ先	期間
1	奈良トラベルサービス	9月3日～21日
1	コーナンメディカル	8月27日～9月7日
2	三和システムフォーム	8月2日～13日
3	太平洋DMサービス	8月20日～24日
3	関西日本電気ソフトウェア	8月21日～31日
3	中央青山監査法人	9月4日～14日
3	カーモードドットコム	8月6日～20日
3	和歌山松下ライフエレクトロニクス	8月27日～9月7日
3	関西日本電気ソフトウェア	8月27日～9月7日
3	中央青山監査法人	9月4日～14日
3	伸和エンジニアリング	8月20日～29日
3	フジヨシ	8月27日～9月6日
3	ジョブコンサルティング	8月2日～16日
3	東芝 関西支社	8月8日～17日
3	尾道エフエム放送	8月6日～18日
3	兵庫不動産鑑定所	8月7日～9月18日

# 「社会との新しい関係が、 大学をもっと面白くする?！」

研究成果を社会に広く還元していくことは、本来的に、大学に求められる重要な役割の一つ。  
最近では、一方的に成果を提供するのではなく、それをもとに社会とより密接に結びつこうとする動きが盛んになっている。  
いま大学が、社会と新しい関係を築いていく背景には、どんな狙いがあるのだろう。  
また、「社会に開かれた大学」とは、社会と大学のどんな関係を言うのか。  
開学以来、常に社会とのつながりを重視してきた  
甲南大学の取り組みをひも解き、  
その新たな関係について探る。



学生会館管理運営委員長 山下哲郎さんに聞きました

## 「学生会館は、キャンパスの 他の施設とどう違うのですか?」



学生が、自分たちの手で管理・運営を行う  
大学内の施設それが学生会館です。具  
体的には、僕たち学生会館管理運営委員  
が会議室や小ホール、ラウンジのほか、各  
クラブの部室として用意されている施設を、  
利用を希望する学生入貸し出し、また補修  
などのメンテナンスも行います。  
この業務に携わっていて、一番頭を悩ま  
すのは、部室の割り振りですね。学生会館  
では利用を希望する学生団体が多いため、  
できるだけ公平に使ってもらおうと、年に  
一度部室の入れ替えを行っています。その  
選出基準は、過去一年間でより活発に活動  
した団体としていますが、これは書類を眺  
めるだけではなかなかわからない。最近で  
はサークルやクラブの人と食事をする機  
会を設けて直接聞き出すなど、より公平  
に判断していけるよう気をつけています。  
このように、学生会館は甲南大生なら誰  
でも平等に利用できることをめざす課外  
活動施設。会議室を試験勉強に  
借りたなんていう個人的な  
目的でも全くOKですから、  
どんどん利用して  
ください。

キャンパスライフ  
ここが知りたい!

学生会館編

### 学生会館の主な施設

4F	楽屋 / 舞台 / 小ホール / ロビー / 放送室
3F	自治会中央委員会室 / 同会議室 / 第3会議室 / 第4会議室 / 第5会議室 / 第6会議室 / 第7会議室 / 部室 (I.S.A.ほか12団体)
2F	学生会館管理運営委員会室 / ラウンジ / 自動販売機コーナー
1F	音楽練習室A(交響楽団) / 音楽練習室B(軽音楽部) / 音楽練習室C / 音楽練習室D(フォークソング同好会) / 自然科学研究会部室 / 料理室(茶華道料理部道心会) / 華室(同) / 茶室(同) / TVラウンジ(K.S.W.L.) / TVスタジオ(同) / 第1会議室 / 第2会議室 / 宿直員住宅

こんなときに利用しよう!  
学生会館のススメ。

- その1 クラブやサークルの活動のために部室をとりたい。
- その2 舞台のある小ホールで、演奏や演劇などの練習・公演をしたい。
- その3 ゼミ発表の打ち合わせなどに、会議室を利用したい。
- その4 授業の空き時間を過したり、待ち合わせの場所として使いたい。

使用の申し込み方法  
施設使用の申し込み手続きは、2階の管理運営委員会室で行います。その際は、学生証を忘れずに持参してください。

Report 1

ハイテク・リサーチ・センター 杉本直己所長が語る  
**社会の中で研究成果を、いかに活かすか。  
 それが、研究者自身を活かすということ。**

1999年4月に、最先端の研究設備を備えた「甲南大学ハイテク・リサーチ・センター」を開設以来、甲南大学では、これを拠点に、企業や国と連携した開発プロジェクトが進行している。従来の研究に、「社会との連携」という新しい方法を取り入れた背景には、どんな狙いがあるのだろうか。同センター所長 杉本直己教授に伺った。

現在、甲南大学ハイテク・リサーチ・センターでは、「生体関連の超機能性新素材の開発」「情報関連の高機能性新素材の開発」という2つのプロジェクトが進行中。基礎研究に留まるのではなく、応用研究を経て最終的には、実際に企業での実用化をも想定している点で、これらは従来の研究とは大きく異なる。ハイテク・リサーチ・センター所長の杉本直己教授はこのように製品化を意識することで、大学の研究の質を大きく変えていけると言っている。具体的な狙いがあるのか。

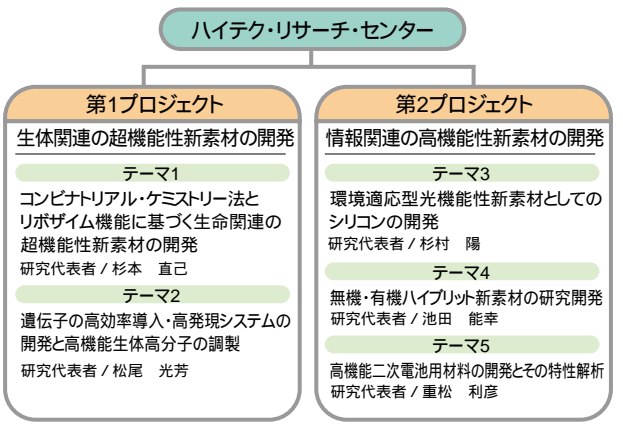


Sugimoto Naoki

「一つには、研究のフィールドを広げるメリットが考えられます。ハイテク・リサーチ・センターで行う研究には、一般企業からあるいは世界各国から、我々の研究に興味を持ち、た方が参加してくるため、それぞれの視点を持ち寄り、一つの研究をより広い発想の中で進めていくことができます。また、各自がそれを企業なり、国の研究所へ持ち帰って、独自に進め、応用研究の結果などをフィードバックし合うことで、さらに、いままでにはない方向性が見えてくるのではないのでしょうか。」

つまり、さまざまな交流の中で、研究自体を活性化させていくこととするのが、甲南大学ハイテク・リサーチ・センターの大きな目的の一つというのだ。実際に、杉本教授の進めるテーマ「コンビナトリアル・ケミストリー法」と、リボザイム機能に基づく生命関連の超機能性新素材の開発」においても、一般企業のほか、中国・アメリカなどから研究者が参加。具体的な成果を出しては、さらに注目を浴び、優秀な研究員が集まってプロジェクトが活性化するという現象が起きている。そのついで、杉本教授によれば、この施設の目的はそれだけに留まるものではないという。「実は、こうした体制で研究を行うことは、学生の目的意識を培ううえでも効果的。学内の研究は、基本的に基礎研究ですから、ともすれば自分が社会にどんな影響を与える研究を行っているのかという意識が薄くなりがちです。しかし、ハイテク・リサーチ・センターによるプロジェクトが開始してからのというもの、私のところに寄せられる学生の質問は、実用化を見越したものが多くなっています。ベンチャーを意識した雰囲気が高まり、研究姿勢が意欲的になってきた手応えを感じますね。」

研究成果をただ大学内に留めるだけでは、それ以上の成果は期待できない。しかし、それを広く公表し、実業化という具体的な活動に結びつけていくことで、さまざまな視点を持つ研究者を集め、自らの意識さえ変えて、活動を活性化していける。この試みは、まだ始まったばかりだが、甲南大学のさまざまな研究が、科学技術の先端を担う大きな足掛かりとなっていくに違いない。



Report 2

杉村芳美、中村耕二両教授が語る  
**社会人に広く、学びの場を開くことから、  
 大学自身の活性化が始まる。**

大学での学習機会を社会に広く提供する公開講座と科目等履修生・聴講生制度。甲南大学では、6つの社会人向け講座を開講するほか、各講義への社会人の受け入れを幅広く実践している。公開講座委員会の委員長である杉村芳美教授、言語講座や社会人講座を提供する国際言語文化センター所長の中村耕二教授の二人に取り組みにかかる甲南大学の狙いをつかかった。

大学卒業後も、学び続けたいという「生涯学習」の要望は、近年、とくに高まる傾向にある。甲南大学では、そうしたニーズに応え、経済問題や先端科学、世界の文化比較といったさまざまなテーマから小学生対象の「フロン講習」まで、幅広い学びの機会を地域の人々に提供する公開講座を開催している。しかし、杉村芳美教授は「こうした試みは必ずしも、知識を提供する『立場で行うものではない」と強調する。

「講義を聴きに来た人だけが学ぶのではない」という意味です。なぜなら、社会人となつてなお大学で学ぼうとする方の意欲は非常に強い。教える我々が、より密度の濃い内容を提供する姿勢を持ち、常に向上していかなければ、教壇には立てません。例えば、今年度秋期の『IT革命と経済の行方』という講座では、テーマに則して、担当の経済学部の先生方は、IT手法を積極的に利用した講義をされました。また、受講生は、いずれも多くの体験を積まれた方ばかりなので、講義のやり取りを通して講師自身が知識を深めていくこともあり得ます。これは我々にとっても、非常に意味のある機会なのです。」

つまり、社会人と教員がお互いから学び、それが甲南の公開講座とつながる。特定の学部だけでなく、各学部の教員が公開講座に携わるよう配慮されているのも、そうした狙いがあるのだと、杉本直己教授は語る。



Nakamura Koji

ラスで、社会人の科目等履修生や聴講生を相手に講義を行う中村教授は、自身の講義を振り返って、次のように続ける。

「外国語の中上級クラスには社会人も参加するクラスがありますが、私自身驚いているのは、社会人が入ることにより、授業全体が活性化するという事実。例えば、授業に取り組む姿勢一つとっても、社会人は水を吸うスポンジのように知識に対して意欲的ですから、これが学生に良い刺激を与え、積極的なクラスのムードを作るようです。また、私のクラスでは、国際英語を使い、議論の自身を培うティスカッションを重視しています。ですから、学生と社会人が考えをぶつけ合う機会が非常に多い。これは学生にとってみれば、教員とは違う立場から、実社会での経験に基づいて貴重な意見を聞くことができるばかりが、社会で通用するプレゼンテーションの手法を実践で学ぶチャンスでもあるのです。」

甲南大学では、言語講座、英・独・仏・中・土曜日を実施（や夏期社会人講座、メインテーマは「言語と文化」）など、いずれも年々参加者が増加しているという。これは単に、社会人の生涯教育への意識が高まってきたことに留まらな。交流の中で活性化し、自身の濃い講義に、対し、より多くの参加者が集まるといつのが現状だ。中村教授は、「社会人学生は甲南の財産」と言い切るが、こうした事例を見る限り、甲南が今後、この関係を進め、お互いに発展していくには間違いない。

Sugimura Yoshimi





**社会と新たな関係を築く、甲南大学の取り組み(一例)**

**行政と** 未来の水環境を守るプランを東灘区役所と共同で実施 **ビオトープ作り**

野生の植物や生き物が生息できる水辺(ビオトープ)を設置し、自然を壊さない“循環型コミュニティ”創造のための研究・観察を行うという、学生主体のプランに東灘区役所が注目。現在は両者の協力により東灘区の神戸市水環境センター処理場敷地内で、ビオトープ作りが進められています。

**地域・他大学と** 地域の人々、他大学の学生とともにまちづくりに参加 **岡本クリーン作戦**

自治会の学生を中心に、およそ150人の学生が商店街の方々などと協力し、阪急岡本駅、JR摂津本山駅、甲南大学などの周辺を清掃するボランティア、“岡本クリーン作戦”を実施。今年も、神戸薬科大など、東灘区の大学とも共同で進めていく予定。



**世界と** 環境教育の可能性を探る国際会議を学生主体で計画 **グローバルな循環型コミュニティー創造プロジェクト**

学内の環境活動で得たさまざまな情報をインターネットで世界中に公開(www.konan-u.ac.jp)。さらに、タイ・中国・カナダなどの大学などに呼びかけ、学生主体の国際会議を開き、21世紀の環境教育の可能性を議論する計画が進行しています。

**市民と** 地域の人々の、心の健康をアドバイス **心理臨床カウンセリングルーム**

子どもの発育の問題や不眠、過食などの悩みなど、地域の方々心の健康に関する相談に、4人の臨床心理士を含む、専門スタッフが対応。子ども同士で遊ばせ、交流の中で健全な発育を促す「うりぼうくらぶ」など、さまざまな試みを行っています。ご利用に関する問い合わせは、同室受付(11p)まで。



産学協同のプロジェクトにより、国や企業と連携した研究を行う、蓄積した知識・ノウハウをもとに、一般の社会人に向けた公開講座を開講する、カウンセリング活動を、学外を対象に広く実施するなど、甲南大学が社会に働きかける取り組みには、実にさまざまな形がある。しかし、それらはいずれも、ただ社会に貢献しようとするものではない。積極的に研究成果を提示し、活用することで、同時に、いかに大学自らを活性化させ

るかまで見据えたものばかりだ。こつこつした活動を通して、実際に教員や学生の意識を変え、研究成果をより深く掘り下げている事例を見る限り、社会に開かれた大学とは、単に大学から社会へ何かを提供していくことをいうのではないだろう。あくまで相互の交流の中で、それぞれを活かしあつた関係、それを築いていくことで、今後、大学が社会と結びつくうえで必要とされる発想に違いない。

**社会貢献と実践学習。双方を同時に見据える視点こそ、それぞれをより充実させるカギ。**

甲南大学では、1997年4月より、カウンセリングセンターを設立。これにより、大学外の人々の心の健康相談に応じる心理臨床カウンセリングルームの活動を、スタッフと設備の両面からいっそう充実させてきた。カウンセリング活動を推進する背景を、所長の福島孝夫教授にお話しいただく。

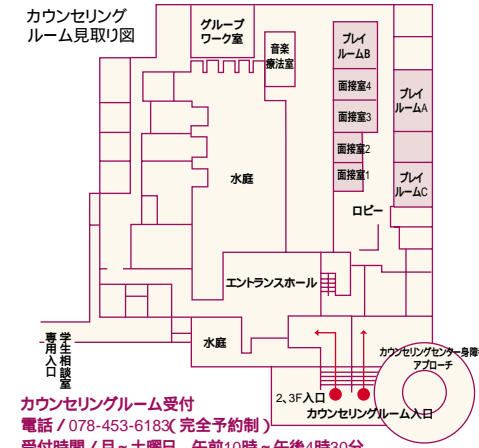


面接室(心理療法)、プレイルーム(遊戯療法)、箱庭療法の設備、音楽療法室やグループワーク室など、現在、臨床心理のカウンセリングに考えられる最高の設備を設け、専門知識と資格を持った6名の教員が指導にあたるなど、全国でも屈指の充実度を誇る心理臨床カウンセリングルーム。兵庫県をはじめ、近畿の各府県はもとろん、広島や名古屋など、わざわざ遠方から来訪する人がいるほど、学外の人々に注目されているが、本カウンセリングルームは単なるカウンセリング施設ではない。同時に、大学院人間科学専攻の院生が教員や臨床心理士の指導を受けながら実習を行う学びの場でもあるのだ。カウンセリングセンター所長の福島孝夫教授はこの施設の意義を語るうえで、その点が肝心と強調する。

「本センターでは、2000年度に延べ1800回以上もの面談を行っています。このように注目される原因の二つは、設備やスタッフの充実とともに、私たちが営利を目的にしない大学の施設であるという点が挙げられるでしょう。いわば採算を抜きに、真にクライアント(来談者)の立場に立った親身の相談が行われているということ。必要な場合には、クライアントにより適した他のカウンセリング施設があれば、そちらを紹介することもできるのですから、クライアントにとって非常に心強いと思います。」

一回のカウンセリング料3000〜5000円にしている。有料であることにより責任のある、より意欲的なカウンセリングを行うという点を考慮していること。福島教授はさらに続ける。

「一方、これをスタッフや院生の側から見た場合どうか。先程も触れた理由から、ここには広範な地域から、年齢も3歳から80歳までと非常に多様なクライアントが、それぞれの悩みを持って相談に来られるわけです。それは、教員にとっては貴重なフィールドワ



「この場であり、院生にとっては臨床心理のリアルな実習の場であるわけです。人の心に傾け、一緒になって課題を解決していくには、どれだけデータや知識を持っているかより、学んだ知識を現場で実際に確かめ生きた知識・技量としてどれだけ確実に自分のものにしていけるかが重要な点です。ですから、とくに院生にとっては、ここは貴重な体験を積むことのできる、生きた学びの場なのです。」

そもそも心理臨床カウンセリングルームのはじまりは、文学部の教授が始めた個人的なボランティア活動だったとか。しかし、その小さな活動はいまや広範な地域から利用者が訪れるまでに発展した。社会への貢献と研究教育への役立ち。この方向を同時に見据え、社会と大学の双方に、ともに貢献していくとする新しい発想が、今後もさらに大きな成果を生み出していくのだろう。



Fukushima Takao

講義でドイツ語やドイツの言語文化を教える一方、「ドイツ語弁論大会」に参加を希望する学生を個別に指導している国際言語文化センターの藤原三枝子助教授。これまでも多くの学生と二人三脚で大会に挑んできたが、奥村祐加さんの優勝は、なかでも印象的という。

「ドイツ語弁論大会には、暗唱と弁論という2つの部門があり、暗唱して発表するのが、誰かの作った文章か、自分の意見かという違いはありますが、いずれも、語り手が、その文章をどれだけ自分のものとして聞き手に伝えることができるかがポイント。丸暗記して、流暢に話せれば良いという単純なものではないので、自分に合ったテーマを選び、それをとことん練習するやる気が必要なんです。奥村さんの場合は、一つの大会に向けて取り組む姿勢もそうですが、最初は暗唱で3位をとった後、次から弁論にステップアップし、3度目の大会で優勝したように、長期的に続ける辛抱強さを持っていたので、こちらもとことん応援できました。結果として、優勝できたことはうれしかったですね。あのときは、ほかに上手な学生がたくさんいて、しかも彼女が一度文章を忘れてしまうハプニングがありましたから、2人とも信じられなくてキョトンとしましたけど(笑)。奥村さんには、あの体験を、単なるドイツ語の練習ではなく、これから生きていくための自信にして欲しいと思っています」

国際言語文化センター所属の教員として、ドイツ語教育、ドイツ語学などの講義を担当。信条は「まず、トライすること」で、あるドイツの歌の一節、「Heute fängt an, was du daraus machst(今日の自分が明日の自分をつくる)」をよく口ずさむとか。

ドイツ語を専攻したのは、「昔からなぜか縁があるような気がしていたから」という奥村さん。ドイツ語弁論大会への挑戦をきっかけに、その学びにのめり込む。藤原先生との出会いが、さらにドイツ語に興味を持つきっかけになったという。

藤原三枝子助教授(国際言語文化センター)



「ドイツ語弁論大会」に二人三脚!  
学生と教師を超えた、もう一つの絆。

奥村祐加さん(文学部4年次)



3年生のとき、関西の大学生が競うドイツ語弁論大会で見事優勝を果たし、4年生となった今年ドイツ、ライプツィヒ大学への留学にも挑戦。興味のあるドイツ語を軸に、人一倍積極的に活動する奥村祐加さんが、実は、いまの自分の姿は、大学入学当時から想像もつかないと話す。

「以前は、これといった目的も持たずに、大学生を送っていたんですよ。ところが2年生のとき、ドイツ語の先生に誘われて『ドイツ語弁論大会』出場を意識。そこで指導役の藤原先生に出会ったことで私の生活は一変しました。はじめて会ったときの先生の印象はとてもサバサバした人。テーマ選びを手伝ってもらったときも、多くの人が、最初は簡単な童話を選ぶのに、先生は『あなたには童話は似合わないわね』と即断。私はじっくり考えるタイプだから、最初は先生のテンポの良さが不安で、不安で(笑)。だけど、いざ取り組んでみると、これほど心強い味方はいないと実感しました。とくに本番前は、毎晩欠かさず、電話でスピーチを聞いてくださったほどで、その熱意のおかげで、私もいつの間にか本気になることができました。ここで優勝できたのは、自分の可能性に気づくことができたという意味で確かに大きかった。でも、本当の収穫は、性格は全く違っけれど、仲間のように信頼できる先生に出会えたことだと思っています」

5回 ドイツ語弁論大会



Seminar

ゼミ編

森田ゼミ

文学部社会科学  
森田 三郎教授



“高分子”の可能性を探り、  
環境問題などの難問に、分子レベルからアプローチ。

私の研究テーマは、特殊な高分子の合成と高分子側鎖基の反応。高分子というと一般の方には馴染みがないように思われるかも知れませんが、実はごく身近なゴムやプラスチック、合成繊維などはすべて高分子材料なのです。この高分子の性質を見極め、人間に都合の良い物質へと応用していくというのが、研究の主な内容です。

基が水分を分子レベルで吸収するため、体積が増えないうえ、一度吸収した水分が戻らないのです。このように、分子レベルで考えることにより、一見不可能に見える、さまざまな問題を解決することができます。

具体例を挙げれば、最近市販されている「おむつ」には吸水性ポリマーという高分子の働きがあります。従来のおむつでは、繊維と繊維のすき間に水分を蓄えるため、触ると手が濡れましたが、吸水性ポリマーでは、高分子の特質である側鎖

基が水分を分子レベルで吸収するため、体積が増えないうえ、一度吸収した水分が戻らないのです。このように、分子レベルで考えることにより、一見不可能に見える、さまざまな問題を解決することができます。

人の意見を参考に、さらに深めていく場です。テーマ選びから、研究を進め、ゼミ論文としてまとめあげるまで、先生から指図されるのではなく、全部自分で進めないといけないので結構大変ですが、好きなテーマを選んで学べるので、その分、やりがいも十分に感じています。

ゼミの仲間が研究しているテーマの発表を聞くのも、知らない専門知識に触れられるので勉強になりますね。半年に一回は、一つのテーマについて全員がレポートを書き、それを編集した「コースレター」を発行するなど、ゼミ仲間同士で刺激し合って学べるのも、森田ゼミならではかも知れませぬ。

文学部社会科学 4年次  
泉初香さん/中井那由子さん/渡邊英恵さん



一人ひとりが、自分だけのテーマを研究し、お互いの交流で広い専門知識を身につける。



Laboratory

研究室編

有機工業化学研究室

理工学部機能分子化学科  
玉置 克之教授



Aリーグ昇格をめざして一致団結。全員が真剣だから、絆も深い。

### Sports

体育会  
ラグビー  
フットボール部



大学の開学と同時に発足した伝統あるラグビーフットボール部。体育会らしく礼儀には厳しいものの、先輩・後輩の関係は実に良好です。とくに今夏は、開学50周年の記念事業「甲南21クリエイティブ・プラン」の優秀企画に選ばれ、先輩・後輩揃ってオーストラリアへ遠征。地元のクラブチームと交流試合を行うなど、絆をさらに深めました。

そんなラグビーフットボール部の40人が、現在向かう目標は、やはり試合に勝つことであり、ひいては関西大学Aリーグへ昇格すること。「毎日の積み重ねが大切」というキャプテン廣田雄治さんの言葉通り、部員それぞれが週6回2時間の練習に加え、自主トレも積極的に取り組んでいます。マネージャーを含めた全員が一つの目標に向かい、努力し、助け合い、真剣に取り組み。チームは、練習の中でも団結を日増しに強め、確実に力を付けてきました。

9月から始まった公式戦では、70点以上も差をつけられて惨敗したときも、トドメカーが盛り上げ、すぐに全員で、次の勝利へと前向きに努力。結果は4勝5敗で7位と、残念ながら今期は悲願達成が叶わなかったものの、メンバーにとってはこのワンシーズンに賭けて一年間努力してきただけに、「一試合一試合すべてが思い出深いドラマとなりました。

また、自分たちのことをより多くの人に知ってもらいたいというクラブのホームページも開設。今でもよくクラブに顔を出し、応援してくれているOBたちに、リアルタイムで試合結果を報告するのにも役立っているそうです。



古寺名刹の国宝に触れながら、はるか昔の美術工芸に思いを馳せる。

### Culture

文化会  
古美術研究会



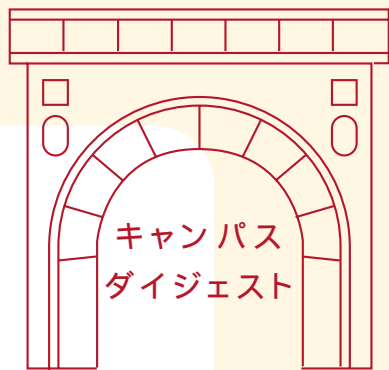
奈良の薬師寺や京都の平等院など、関西の名刹に残る美術工芸品、おもに絵画・彫刻・建築・庭園の4ジャンルを対象に研究する古美術研究会。部員は現在、26人。週1回、名作名品の生まれた時代背景や文献をもとに、作者がどんな思いを込めて、それを造ったか、イメージを膨らませながらディスカッションを重ね、一つの結論を導き出します。

机上の空論に終わらせないため、月に1度はお寺へ実物を見学。薬師寺にはとくにお世話になっているため、掃除など、年中行事のお手伝いに行くこともしばしばです。そうした現地調査の中で、国宝の薬師如来像など、普段は遠くから眺めるだけの仏さまに、実際に触れられるのは古美術研究会ならではの、東大寺に就職したOBの計らいで、あの「大仏さん」もごく間近で拝むことができたそうです。



また、寺院巡りを通して、自然に禅の境地に触れられるのも、このクラブの醍醐味。泊まりこみで勉強させてもらうときは、僧侶とまったり同じ生活をすると、朝のおつとめはもちろんだら、食事の前の誦経は絶対。「全員、般若心経を暗唱できます(笑)」と、代表の大崎さくらさん。女子部員も多く、アットホームな雰囲気でも楽しく活動しています。今後は近畿圏だけに留まらず、日本全国の神社仏閣を尋ねて回りたいそうです。

### CAMPUS DIGEST



「IT革命が社会に与える影響は、6人の講師がそれぞれの観点からアプローチ。」

「IT革命と経済の行方」をメインテーマに、9月29日から11月10日まで、全6回に渡って開かれた2001年度秋学期公開講座。

毎週土曜日、6人の経済学部教員が講師となり、それぞれ専門の観点から論じました。第一回目は、藤川清史教授による「教育とIT革命」。全体のイントロともなる幅広い内容をお話いただきました。続いて、第線で活躍するアナリストでもある稲田義久教授が、「IT革命が導く新たな成長への道」について、アジア経済の専門家である青木浩治教授が、「アジア経済とIT革命の役割」について言及。後半では、小山直樹教授が消費者の観点から考える、「IT社会の行方」を、日本証券経済研究所主任研究員で本学非常勤講師の伊豆久氏が証券業界への影響を、「IT革命と証券市場」で解説。最終回では、佐藤

前・最高裁判事を招いての講演会。難しい専門知識も分かりやすく説明。

甲南大学法学会では10月9日、前・最高裁判事の元原利文先生をお招きし、秋季講演会を開催。先生は、「司法審査と最高裁判所」という難解なテーマを、身近な出来事やニュースなど、誰もが覚えのある事件を例に取り、具体的に説明されました。また、時代や裁判官によつて、法の解釈が変わることについても言及。「正か否かの判断が難しい」そこをいかに見極めるかが重要」と、最高裁の役割を語られました。終始、非常に分かりやすい言葉で解説していただいたため、法学の知識が乏しい人にとつても、専門知識に触れるまたとない機会となりました。



「物づくりは人づくり」をスローガンに、「ロボット博士」が熱演。

今年、学科の再編を行った理工学部では、10月27日これを記念して講演会を開催しました。講師は、「ロボット博士」で知られる東京工業大学名誉教授の森政弘先生。「物と人間の付き合い方」と題し、まずは懐中電灯の光に音を乗せる実験など、興味深いデモンストレーションからスタート。続いて本論では、モノに対する考え方、「物観」が大切であると解き、存在には必ず相手があ

る。二つの物がお互いを活かしながら作用して始めて意味を持つ。人間も同じです」と、そのソフトな面を強調。人生論にまで通ずるお話に、来場者全員、深くつなずきながら聞き入っていました。

日頃の学生生活にふれる機会。中国・四国地区で教育懇談会を開催。

11月11日、ホテルグランヴィア広島で今年度第2回目となる中国・四国地区大学教育懇談会が開かれ、在学生の父母約70名が参加されました。最初に吉沢英成学長の挨拶があり、学部長等の紹介、そして高石恭子・文学部助教授が「学生生活と心の問題」をテーマに講演。引き続き個別相談が行われ、最後は懇親パーティーにより閉会しました。遠方のご父母にとっては「子女のキャンパスライフを知る機会となった」の会、今後も地域ごとに実施していく予定ですので、その際はぜひご出席ください。

留学生がとび入りDJ! 自治会主催のウェルカムパーティー。

10月12日、平生記念セミナーハウスで、アメリカイギリスドイツなど6カ国の留学生を囲んでのウェルカムパーティーが開催されました。パーティーは立食で、参加者は約350人、自治会国際交流委員会・IECが企画・主催するというもので、一カ月半をかけて準備された企画は参加者に大好評。とくにメインイベントの大抽選会では、ホテルの宿泊チケットやクルーザーの乗船チケットなど、学生自身が各企業に協賛をお願いした豪華景品の当選が発表されるたびに、大いに盛り上がりを見せました。



治正教授が、日本の情報通信革命の行方」と題し、ネットサーブの未来図を展開しながらまとめられました。



**難関中の難関、司法試験に  
本学卒業生2人が合格！**

11月9日、2001年度司法試験の合格者が法務省から発表され、本学卒業生2人の合格が確認されました。合格率2.9%の超難関を突破したのは、1998年度卒業の高松直樹さんと1999年度卒業の平尾鉄兵さんとともに法学部法学科卒。この朗報は現役学生たちにとっても大きな励みとなることでしょう。お一人の努力を称え、心からお喜び申し上げるとともに、今後ますますの活躍をお祈りします。

**感動と熱気でキャンパスが染まった  
第37回甲南摂津祭。**

11月21日～25日の5日間、神戸・東灘の秋の風物詩ともいえる摂津祭が今年も盛大に行われました。第37回を迎える今回のテーマは「Highspirits」。



テーマにぴたぴたと、演劇祭を皮切りに、体育祭、演舞祭と、それぞれ日頃の活動の成果と甲南スピリットを存分に発揮した催しに、

会場はしだいにヒートアップ。また23日の学術祭には、直木賞作家の浅田次郎氏を迎えて講演会を実施、大盛況となりました。夕刻には、花火とイルミネーションがキャンパスを幻想的に彩り、そして25日の音楽祭で一気にクライマックス。まさに地域の方と甲南大生が一体となつて楽しんだ5日間でした。

**「元祖ベンチャー企業」からの提言。  
将来の日本のために、  
今やるべきこと。**



21世紀に入り、ますます活発に先端科学技術の研究を進めるハイテクリサーチセンター。同センターでは11月23日、企業・行政・大学といった「産官学」の連携に不可欠な要素として、「21世紀の夢」をテーマに講演会を開きました。講師に迎えた株式会社堀場製作所の取締役会長、堀場雅夫氏は、大学在学中に起業された方だけに、その一言一言に深い重みと説得力が、これからの日本が進むべき方向性を力強く指し示してくださりました。



【新版】  
日本の経済犯罪  
その実状と法的対応  
神山敏雄 著  
日本評論社  
¥3,700(税別)



双書 科学 / 技術の行方  
科学者の将来  
佐藤文隆 著  
岩波書店  
¥2,000(税別)



天才の精神病理  
飯田真、中井久夫 著  
岩波現代文庫  
¥1,100(税別)



女性が母親になるとき  
ハリエット・レーナー 著  
高石恭子 訳  
誠信書房  
¥2,850(税別)



皆様からのお便りでつくる  
コミュニケーションスペース

学内で資格講座を開講されているとは知りませんでした。せっかくこのような機会があるのだから、我が子にもぜひ資格取得にチャレンジして欲しいと思います。今後は社会で活躍されているOB・OGの方の紹介を希望します。  
(広島県 理工学部・母)

甲南フォーラムは、読者の皆さまからお寄せいただいたお便りです。今回は、第7号の内容特集、学内資格講座を活用しよう、などに対していただいたご意見、ご感想を紹介いたします。皆さまと大学のコミュニケーションをさらに深めていくために、ぜひ「一読ください」。

とても読みやすい冊子だと思います。大学の個性についても改めて考えさせられました。娘の就職が心配なので、就職に関する情報や、どんな準備が必要かもぜひ掲載してください。  
(兵庫県 経済学部・父)

資格講座の特集が興味深かった。これからもどんどん関連記事を載せてください。また、公務員志望者のための受験対策講座も開設して欲しいと思います。  
(大阪府 理工学部・父)

甲南Todayはいつも拝見しており、子どもとの会話のきっかけになっています。今回も子どもが実際にチャレンジした講座がいくつかが掲載されており、興味深く読みました。「い」が伝わってくる甲南はとても温かみのある大学だと思います。  
(法学部・母)

私の父は平生三郎先生の書生でした。会社の親しい上司は甲南のOBです。長男は現在甲南大生として頑張っています。甲南大学には、何やら不思議な縁を感じます。今回は、特集で平生先生の記事を読み、この精神を受け継いで一人ひとりの個性を大切に、将来を見据えた教育を行って欲しいと思いました。  
(文学部・父)

大学の個性を探る特集は、とてもタイムリーな企画で良かった。先日の大学教育懇談会の時、学長が話された内容と合わせて考えると、よく理解できました。  
(経済学部・父)

お便り募集のお知らせ  
甲南Todayでは、誌面を通じて、皆さまとの交流をいっそう深めていくために、「ご意見」「ご感想」をお待ちしています。本誌同封のはがきに必要事項などをご記入の上、「投函ください」。

**編集後記**

『社会と大学の関係』。今回の開学50周年記念特集は、皆さまが普段、あまり意識されたことのないテーマだったのではないのでしょうか。なぜなら、日本の大学は、特定の年齢層を対象とした閉ざされた“学校”としての役割が強く、皆さまの身の回りには、大学と関わる場がそれほど多くないからです。

しかし、実のところ、甲南大学では、さまざまな面で社会との関係を重視。社会と大学がお互いに活性化をもたらす関係に着実に追求し続けています。本冊子、甲南Todayもいわば、そうした取り組みの一つ。皆さまのご意見を取り入れて、誌面、ひいては大学の活性化に結びつけていきたいと考えています。ご意見・ご感想を、ぜひ、広報室までお寄せください。

次号予告  
**甲南Today No.9**  
2002年3月発行予定  
特集  
ボランティアで何を得たか  
開学50周年記念シリーズ5  
「世界に通用する力を  
大学でどう磨く!?」

**甲南Today No.8**  
発行日 / 2001年12月1日  
発行 / 甲南学園広報室  
〒658 8501 神戸市東灘区  
岡本8丁目9-1  
TEL(078)431-4341(代)  
印刷 / 大日本印刷株式会社

**E V E N T G U I D E S C H E D U L E**

3月	2月	1月	2002年	12月
入学試験 A日程 11月5日 入学試験 B日程 11月7日 入学試験 EBA総合T・S・D方式 7日 入学試験 理工学部 C日程 11日 入学試験合格者掲示発表 14日 2001年度卒業証書・学位記授与式 25日	2001年度卒業認定者発表 4日 入学試験 D日程 7日 入学試験 EBA総合T・S・D方式 7日 入学試験 理工学部 C日程 11日 入学試験合格者掲示発表 14日 2001年度卒業証書・学位記授与式 25日	入学試験 A日程 11月5日 入学試験 B日程 11月7日 入学試験合格者掲示発表 15日 体育会祝勝会文化会発表式 父母の会課外活動表彰式 文化会リーダーズキャンプ	講義再開 7日 2001年度講義終了 10日 補講 11月12日 後期試験 15月30日 大学入試センター試験 19月20日	甲南大学名誉教授懇談会 1日 EBA総合T・S・D方式 二次入試 2日 第46回甲南大学対学習院大学運動競技総合定期戦閉会式 8日 EBA高等教育研究所 学生シンチャール講演会 10日 第33回総合研究所公開講演会 15日 体育会リーダーズキャンプ 15日 講義一旦終了 22日 冬期休暇 24日 / 2002年1月6日

文学部歴史文化学科開設記念講演会  
「辛亥革命についての考え」  
【講師】張憲文氏 / 南京大学歴史研究所長  
【日時】12月13日 木 午後4時30分  
【場所】甲南大学 5号館 522講義室

**就職イベントスケジュール**  
就職面接実践講座  
面接突破に向け、少人数による模擬実践を通じて、面接の重要ポイントを個別にチェック・指導し、効果的な自己PRや動作を学ぶために、次の要領で開催します。  
【期間】2002年1月31日(木)～2月6日(水)  
【時間】1日4回開催、開始時間は午前10時、午後0時30分、同2時30分、同4時30分  
所要時間は90分の予定。  
【場所】平生記念セミナールハウス  
【講師】株バリーナリ2名  
【参加費】5,000円  
【申込方法】2002年1月15日(火)から先着順により、就職部で受け付けます。締切は1月25日(金)  
【提出書類】履歴書および申込書

**企業研究セミナー**  
新卒就職希望学生を対象に、業界・企業研究の1助とする目的で開催します。このセミナーは、就職活動を行ううえで大変重要なセミナーとなります。業務繁多のなか多くの企業がご参加くださいますので、民間企業へ就職を希望する学生は、1社でも多く参加するようお願いいたします。詳しいことは、就職部の掲示版をご覧ください。  
【期間】2002年2月13日(水)～3月29日(金)  
【時間】Aセミナール 3月5日(火)～7日(木)を除く  
Bセミナール 午前10時開始、3月5日(火)で開催  
Cセミナール 午後4時開始  
所要時間は90分の予定  
【内容】企業説明および質疑応答  
【参加企業】  
2月13日 / 3月5日まで / 1日につき8社  
3月8日 / 29日まで / 1日につき6社を予定  
【学生申し込み】同じ時間帯の申し込みは、1人1社に限ります。なお、事前の申し込みが必要